

平成25年度における事業評価監視委員会の進め方等について

平成25年9月17日

四国地方整備局

道路事業における重点審議対象案件の選定の考え方(試行案)

選定の考え方	平成25年度 対象事業
■「事業の目的・効果」が著しく変化した事業 該当例 ・他事業の完了により地域の渋滞が解消した場合 ・救急医療施設が閉鎖された場合	該当なし
■「事業計画等」を大きく変更した事業 該当例 ・完成4車線を暫定2車線で事業完了とする事業 ・事業延長が大幅に延びる事業	該当なし
■「投資効果等」が著しく変化した事業 該当例 ・全体事業費が一定程度増加する事業 ・計画交通量が一定程度減少する事業 ・費用便益比が1を下回る事業	・国道196号 今治道路
該当例 ■「事業の進捗見込み等」が著しく変化した事業 該当例 ・供用予定年度が予定より2年以上遅延する事業 ・事業の進捗に変化がみられない事業	該当なし

平成25年度 四国地方整備局 事業評価監視委員会 再評価実施事業一覧(道路事業)

番号	県名	路線名	事業名	前回 評価 年度	事業の目的・効果	事業計画等					投資効果等							事業の進捗見込み等			地域から頂いた主な意見等	審議 区分 (案)
						変化 要因	事業 着手 年度	車線数	事業 延長 (km)	変更 内容	全体事業費			計画交通量※1			費用便益比					
											[今回] (億円)	[前回] (億円)	変化 要因	[今回] (台/日)	[前回] (台/日)	※2 変化 要因	[今回] B/C	[前回] B/C	※3 変化 要因			
1	徳島県	国道192号	徳島南環状道路	H22	<目的> 「徳島外環状道路」の一部であり、徳島市中心部の通過交通を排除し、市街地流入交通の迂回・分散を図ることで、徳島市内で慢性的に発生している渋滞を緩和し、地域の活性化に寄与する地域高規格道路である。 <主な効果> ・徳島市中心部の渋滞緩和。 ・徳島市以西と徳島小松港(重要港湾)の所要時間が短縮し、物流の効率化を支援。 ・三次医療施設(徳島大学病院、徳島県立中央病院)への搬送時間が短縮し、重篤患者の救命率向上が見込まれる。	—	S61	4/4	9.5	—	1,191	1,191	—	36,500	36,600	—	1.2	1.2	—	・事業進捗率 49%(H25.3末)←前回:47%(H22.3末) ・終点側のL=3.3km(徳島市上八万町下中筋～同八万町大野)は、平成24年7月に側道部L=1.1kmを供用済み、残りのL=2.2kmは平成26年度暫定供用に向け工事推進中。 ・起点側の側道部供用済み区間(L=2.2km)を除くL=4kmは、用地取得率76%(H25.5末)で工事も進んでおり、工事全面展開に向け事業認定申請準備中。	徳島県、徳島市、徳島環状道路建設促進期成同盟会等より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。 (H23.5・11、H24.7、H25.1・7)	重点・ 要点
2	愛媛県	国道11号	小松バイパス	H22	<目的> 国道11号西条市バイパス及び主要地方道壬生川新居浜野田線と一体となり国道11号のバイパスとして機能し、いよ小松北ICと西条臨海工業団地や東予港とのアクセスが向上するなど、地元産業、経済の活性化に寄与する道路である。 <主な効果> ・並行する国道11号の渋滞緩和。 ・いよ小松北ICと東予港(重要港湾)の所要時間が短縮し、物流の効率化を支援。 ・三次医療施設(東予救命救急センター)への搬送時間が短縮し、重篤患者の救命率向上が見込まれる。	—	H3	4/4	7.5	—	160	160	—	14,700	14,500	—	1.4	1.3	—	・事業進捗率 41%(H25.3末)←前回:40%(H22.3末) ・起点部のL=400m区間について、平成24年度に地元設計協議を終え、平成25年度は用地買収に向けた手続きに着手。	西条市より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。 (H24.4、H25.4)	重点・ 要点
3	愛媛県	国道33号	松山外環状道路インター線	H22	<目的> 松山外環状道路の一部であり、松山IC、松山空港、松山港、FAZ等の広域交通拠点や地域開発拠点とのアクセスが向上するとともに、市内中心部へ流入する交通を分散し、市内の交通渋滞緩和を目的とする地域高規格道路である。 <主な効果> ・松山市内中心部の渋滞緩和。 ・松山ICと松山空港、松山港(重要港湾)の所要時間が短縮し、松山空港1時間圏域人口が増加するとともに、物流の効率化を支援。 ・「H29年開催予定『愛媛国体』」のメイン会場である松山中央公園と松山ICを結び、円滑な交通を確保。	—	H16	4/4	4.8	—	532	532	—	24,000	24,000	—	1.2	1.2	—	・事業進捗率 60%(H25.3末)←前回:29%(H22.3末) ・平成28年度までの全線暫定供用に向け、全線で工事推進中。 平成25年度:北土居町～古川IC間(L=1.2km)部分暫定供用予定 平成26年度:市坪IC～余戸南間(L=1.8km)部分暫定供用予定 平成28年度:古川IC～市坪IC間(L=1.8km)部分暫定供用予定	松山都市圏道路整備促進期成同盟会より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。 (H24.8、H25.7)	重点・ 要点
4	愛媛県	国道56号	松山外環状道路空港線	H22	<目的> 松山外環状道路の一部であり、松山IC、松山空港、松山港、FAZ等の広域交通拠点や地域開発拠点とのアクセスが向上するとともに、市内中心部へ流入する交通を分散し、市内の交通渋滞緩和を目的とする地域高規格道路である。 <主な効果> ・松山市内中心部の渋滞緩和。 ・松山ICと松山空港、松山港(重要港湾)のアクセスが向上し、松山空港1時間圏域人口が増加するとともに、物流の効率化を支援。 ・「H29年開催予定『愛媛国体』」のメイン会場である松山中央公園と松山空港を結び、円滑な交通を確保。	—	H20	4/4	3.8	—	529	529	—	14,200	14,400	—	1.2	1.1	—	・事業進捗率 12%(H25.3末)←前回:1%(H22.3末) ・平成23年度より用地買収に着手。用地国債を活用し順調に用地取得を進めており、国道56号～東垣生ランプ(仮称)の間は平成25年度末までに約9割の用地取得を予定。 ・平成25年度より起点部の側道部工事に着手。	松山都市圏道路整備促進期成同盟会より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。 (H24.8、H25.7)	重点・ 要点
5	愛媛県	国道196号	今治道路	H22	<目的> 高規格幹線道路網を構成する「今治小松自動車道」の一部であり、瀬戸内しまなみ海道及び松山自動車道をつなぎ高規格道路ネットワークを形成することで、産業・文化などの分野における地域間の交流を促し、地域の活性化を図ることを目的とする高規格幹線道路である。 <主な効果> ・四国と本州を結ぶ高速道路のミッシングの解消。 ・南海トラフ巨大地震など災害時における広域高速ネットワークの安全性・信頼性の確保。 ・並行する国道196号等の渋滞緩和。 ・今治ICに隣接する今治新都市開発事業に進出した企業が、四国内外の出荷に活用できるなど地域開発を支援。	—	H13	4/4	10.3	—	706	670	・埋文調査費用増加 ・トンネル断面変更 ・横断面渠追加により事業費増	12,200	12,500	—	1.0	1.0	—	・事業進捗率 25%(H25.3末)←前回:17%(H22.3末) ・今治朝倉IC(仮称)～今治湯ノ浦IC区間は、用地進捗率99%(H25.5末)であり、残り1%の用地取得に向け事業認定手続き準備中。平成24年度より工事着手し全面展開中であり、平成25年度より朝倉トンネルの工事にも着手。 ・今治IC～今治朝倉IC(仮称)区間は、平成25年度より用地買収に着手。	今治小松自動車道建設促進期成同盟会より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。 (H23.8、H24.8、H25.7)	重点・ 要点
6	高知県	国道56号	片坂バイパス	H22	<目的> 四国8の字ネットワークの一部であり、規格の高い信頼性のあるネットワークを延伸し、高知中心部と高知西南地域の連携の強化を図るほか、災害時における広域交通ネットワーク確保を目的とする高規格幹線道路である。 <主な効果> ・南海トラフ巨大地震など災害時における緊急輸送道路のリダンダンシーの確保。 ・二次医療施設(幡多けんみん病院、くぼかわ病院)、三次医療施設(高知赤十字病院、高知医療センター)への搬送時間が短縮し、重篤患者の救命率向上が見込まれる。 ・線形不良箇所の回避による走行性・安全性の向上。 ・高知県西南地域への観光アクセスを支援。	—	H17	2/2	6.1	—	250	250	—	7,000	6,500	隣接する区間が事業化したため	1.0	1.0	—	・事業進捗率 28%(H25.3末)←前回:10%(H22.3末) ・平成30年度の全線完成供用に向け、主要構造物である橋梁(3橋)は2橋を着手済みで本年度残りの1橋に着手、トンネル(3本)は2本に着手済みなど、全線で工事推進中。 ・用地進捗率は93%(H25.5末)であり、供用に向け事業認定申請準備中。 ・平成24年度に隣接する区間を事業化(窪川佐賀道路)	高知県、黒潮町、一般国道56号バイパス建設推進期成同盟会等より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。 (H24.9・10、H25.2)	重点・ 要点
7	徳島県	国道55号	桑野道路	H22 〈新規〉	<目的> 四国8の字ネットワークを形成する阿南安芸自動車道の一部であり、規格の高い信頼性のあるネットワークを延伸し、近畿圏や徳島中心部と徳島県南地域の連携強化を図るほか、災害時における広域交通ネットワーク確保を目的とする地域高規格道路である。 <主な効果> ・南海トラフ巨大地震発生時の津波浸水想定区域を回避し、緊急輸送道路のリダンダンシーの確保。 ・三次医療施設(徳島赤十字病院)への搬送時間が短縮し、重篤患者の救命率向上が見込まれる。 ・近畿圏や徳島中心部への地場産品の流通の利便性が向上。 ・徳島県南部地域への観光アクセスを支援。	—	H23	2/2	6.5	—	340	340	—	12,400	10,400	隣接する区間が事業化したため	1.7	1.3	交通量が増加したため	・事業進捗率 1%(H25.3末)←前回:-(新規採択) ・平成23年度より新規に着手した事業で、地元設計協議を実施中であり、平成25年度より用地買収に向けた手続きに着手。 ・平成24年度に隣接する区間を事業化(福井道路)	徳島県、阿南市、阿南市高規格道路建設促進期成同盟会等より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。 (H23.5・7・8・11、H24.5・7・11、H25.1・2・5・6)	重点・ 要点
8	高知県	国道55号	南国安芸道路 (芸西西～安芸西)	H22 〈新規〉	<目的> 四国8の字ネットワークを形成する高知東部自動車道の一部であり、規格の高い信頼性のあるネットワークを延伸し、高知東部地域と高知中心部の連携強化を図るほか、災害時における広域交通ネットワーク確保を目的とする高規格幹線道路である。 <主な効果> ・南海トラフ巨大地震発生時の津波浸水想定区域を回避し、浸水想定区域を通過する箇所は十分な高さを確保することで、緊急輸送路のリダンダンシーの確保。 ・安芸市から第三次救急医療施設(高知赤十字病院、高知医療センター)への搬送時間が短縮し、重篤患者の救命率向上が見込まれる。 ・高知県東部における農林水産品(ゆず、なす、ブリ等)の流通の利便性が向上。 ・高知県東部地域への観光アクセスを支援。	—	H23	4/4	8.5	—	355	355	—	11,600	10,000	隣接する区間が事業化したため	2.2	2.1	交通量が増加したため	・事業進捗率 1%(H25.3末)←前回:-(新規採択) ・平成23年度より新規に着手した事業で、地元設計協議を実施中であり、平成25年度より用地買収に向けた手続きに着手。 ・平成24年度に隣接する区間を事業化(安芸道路)	高知県、安芸市、四国8の字ネットワーク整備促進四国東南部連盟より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。 (H23.10、H24.7・10、H25.6)	重点・ 要点

※1. 当該道路内の平均値を記載。

※2. 将来交通需要推計の改善などによる変化については、簡略的に「—」で表現。

※3. 将来交通需要推計の改善や基準年の変更などによる変化については、簡略的に「—」で表現。

※ 内容については精査中

平成25年度 四国地方整備局 事業評価監視委員会 再評価実施事業一覧(道路事業)

(防災面の効果が特に大きい事業)

番号	県名	路線名	事業名	前回 評価 年度	事業の目的・効果	変化 要因	事業計画等				投資効果									事業の進捗見込み等				地域から頂いた主な意見等	審議 区分 (案)
							事業 着手 年度	車線数	事業 延長 (km)	変更 内容	全体事業費			計画交通量 ^{※2}			費用と効果			事業進捗の状況 供用予定 等					
											[今回] (億円)	[前回] (億円)	変化 要因	[今回] (台/日)	[前回] (台/日)	変化 要因 ^{※3}	[今回] 効果	C ^{※4} (億円)	[前回] 効果						
9	徳島県 香川県	国道32号	猪ノ鼻道路	H22	<目的> 香川県・徳島県・高知県を結ぶ広域幹線道路ネットワークである国道32号の猪ノ鼻峠において、冬期の積雪区間、連続する急勾配やヘアピンカーブ、異常気象時の通行規制区間を回避することで、安全で信頼性のある交通機能の確保を目的とする道路である。 <主な効果> ・異常気象時における事前通行規制区間(L=約11km)の解消。 ・緊急輸送道路の信頼性向上。 ・冬期の通行障害の解消。 ・線形不良箇所の回避による走行性・安全性の向上。 ・走行時間の短縮等(451億円(前回426億円)) ^{※1}	—	H15	2/2	8.4	—	432	432	—	6,900	7,300	—	左記 のとおり	398	左記 のとおり	351	・事業進捗率 24%(H25.3末)←前回:19%(H22.12末) ・平成19年度より徳島県側から工事に着手。平成24年度は箸蔵第2トンネル工事に着手し、平成25年度からは西山トンネル工事に着手予定。 ・用地進捗率は99%(H25.5末)であり、残り1%の用地取得に向け事業認定告示済(H25.2)裁決申請準備中。	徳島県、徳島県三好市、四国びとみらい実行委員会等より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。 (H23.7・8・12、H24.7・11、H25.5・7)	重点<要 点>		
10	徳島県	国道55号	牟岐バイパス	H22	<目的> 南海トラフ巨大地震発生時の津波浸水想定区域を回避し、緊急輸送道路の機能を確保することで、安全性・信頼性の高い広域交通ネットワークの構築を目的とする道路である。 また、災害拠点病院(県立海部病院)の高台移転、避難広場(面積:2,300m2、避難想定人数:約910人)の整備など地域の防災まちづくりと一体となった整備により、地域の津波・地震対策を支援する道路でもある。 <主な効果> ・南海トラフ巨大地震発生時の津波浸水想定区域を回避。 ・緊急輸送路の機能を代替し、災害時の救急活動や救援物資の搬送などを支援。 ・走行時間の短縮等:51.3億円(前回51.9億円) ^{※1}	—	H16	2/2	2.4	—	70	70	—	5,000	5,200	—	左記 のとおり	65	左記 のとおり	60	・事業進捗率 16%(H25.3末)←前回:12%(H22.12末) ・平成24年度より用地買収に着手し、徳島県、牟岐町と一体となって病院(移転)予定地周辺の用地買収推進中。用地進捗率は16%(H25.5末)。 ・H24.10.31に徳島県が公表した津波浸水想定区域をもとに、起点部において、津波対応方策を検討中。	徳島県、国道55号バイパス建設促進県議会議員協議会より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。 (H23.5・8・11、H24.5・11、H25.3)	重点<要 点>		
11	高知県	国道33号	越知道路(2工区)	H22	<目的> 地すべりや落石などの災害の危険性を解消し、急カーブなど線形不良箇所を回避することで、安全で信頼性のある幹線道路の交通機能の確保を目的とする地域高規格道路である。 <主な効果> ・異常気象時における事前通行規制区間の短縮。 ・線形不良箇所の回避による走行性・安全性の向上。 ・災害時の通行止めによる大幅迂回の解消。 ・走行時間の短縮等:126億円(前回125億円) ^{※1}	—	H20	2/2	3.0	—	137	137	—	7,300	7,100	—	左記 のとおり	115	左記 のとおり	109	・事業進捗率 7%(H25.3末)←前回:2%(H22.12末) ・平成24年度より用地買収に着手し、用地進捗率は25%(H25.5末)。 ・平成25年度より立花大橋の工事に着手。	国道33号整備促進期成同盟会高知県協議会等より、本事業の整備促進について積極的な要望活動が続けられている。 (H23.7、H24.7、H25.7)	重点<要 点>		

※1. 金額は、完成後50年間の便益額として現在価値化した数値。* 内容については精査中

※2. 当該道路内の平均値を記載。

※3. 将来交通需要推計の改善などによる変化については、簡略的に「—」で表現。

※4. 基準年における現在価値化した数値。